

# 透析しない選択肢 病状問わず提案

## 福生病院学会提言逸脱を認識か

公立福生病院（東京都福生市）の人工透析治療を巡る問題で、病院側が病状にかかわらず腎臓病患者に透析をしない選択肢を提示していたことがわかった。透析をすれば生き続けられる患者も含まれており、病院側は専門医らの学会の提言から逸脱していることを認識していたとみられる。患者や医療者から疑問や批判の声があがっている。

福生病院は福生市と羽村市、瑞穂町をつくる福生病院組合が運営し、2018年4月に「腎臓病総合医療センター」を設置した。ここでは、腎移植ができない患者などによる「センター」を設けた。これとは別に昨年10月、別の医療機関で透析を受けていた女性（当時44）が受診した際、首周辺から管を通す透析や、透析を拒める選択肢を示したところ、女性は透析中止を選び、1週間後に死亡した。その前日に女性に透析再開を求めたものの証言もあるという。透析中止で死亡したのは、女性を含めて4人という。

日頃から数週間死に至るとされる。日本透析学会は14年にまとめた提言で、透析を中止もしくはしないことを検討できる状況を規定。患者の全身状態が悪く、透析による負担が患者の生命を損なう危険性が

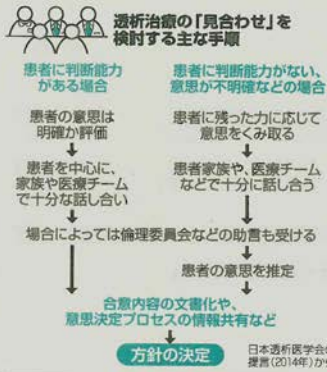
高い場合に限って、女性の病状は提言に合致していなかったと認めている。ほかの患者にも提言に合わない状態での透析をしない選択肢を示していたとみられる。東京都によると、病院は提言を「厳しすぎる」とし、「透析をしない選択肢も患者には必要」との趣旨の説明をしているという。（土居新、河井雄

### 「十分な説明・信頼関係が必要」

患者・専門医  
腎不全患者が透析治療をしない、あるいはやめるのはどんな場合なのか。透析患者や専門医らに聞いた。「透析をやめませんか」ということは「死にますか」と聞くと「同じ」とその判断を身体的、精神的に追い詰めてある患者に迫るのは酷なこと。患者は正常に判断できない。東京腎臓病協議会事務局長で、自身も15年間透析を続ける板橋俊司さん（69）はいう。10歳で慢性腎臓病と診断され、40代半ばから日常的に頭痛や吐き気、全身のだるさに悩まされるようになった。55歳で透析を始めた。左腕の血管に管を通し、病院で1日おきに5時間かけて老廃物などを取り除く。日本透析医学会によると、2017年末時点の透析患者数は約33万4千人。平均年齢は68・4歳で、寝たきりの人も少なくない。

医療現場の要望に込め、同学会は14年に提言をまとめた。あくまでも目安に過ぎず、提言と違う対応をしても法的に罪に問われるわけではない。提言は透析をしないあるいは中止する場合として、がんなどの重い病気を抱えていたり、透析でかえって体に負担をかけたりの患者を想定。医療チームと患者や家族で十分話し合い、場合によっては倫理委員会にも諮るよう求めている。東京都内の大学病院の腎臓内科医は提言に詳しい。末期のがんや重い心不全などがある患者に限って透析を中止の選択肢を示す。「病状や透析ができない理由などを患者、家族に丁寧に説明し、理解を得て中止を決める」と話す。

35年以上透析を続ける兵庫県の宮本高安さん（60）は提言を作るにあたり、患者の団体代表として意見を述べた。治療の継続や中止を決める権利は患者にあること、権利の行使には医療者からの十分な説明と患者の納得、両者の信頼関係が不可欠だと指摘した。福生病院の件について、「詳細はわからないが、治療中止の選択肢はあってもいい。た



#### 重い腎不全の治療法の長所と短所の例

○長所	×短所
医師からのケアが元々日本に比べて多い	週3回程度、食糧や水分の制限が大きい
在宅で行い、通院は月1、2回程度で済む	腹膜が10年ほど使えなくなることが多い
生活の質が高く、社会復帰しやすい	免疫抑制剤や副作用による腎障害

日本腎臓学会などのハンドブックから



透析用の血液の出入り口「シャント」を示す板橋俊司さん（福生病院）

#### 福生病院の透析をめぐる経緯

2018年	8月	9日
		女性（当時44）がセンターを訪れ、透析の中止に同意
	14日	体調が悪化し、女性が入院
	15日	女性が透析の再開を要望
	16日	女性が死去
19年	3月	東京都が立ち入り検査
	6日	日本透析医学会が調査を立ち上げ
	7日	日本透析医学会が立ち入り調査へ
	中旬	（都や関係者への取材から）

だ、患者はその他の治療法について十分な情報提供を受けたのだろうか」と話す。透析には夜間に寝ながらするものや、自宅でできる腹膜透析もある。治療のつらさから「やめたい」と話す人はいるが、終末期患者以外で実際に中止した人は少ないという。二夫すれば日常生活を送れる」と話す。

長崎腎病院（長崎市）は、重症になる前の意識がはっきりしている間に患者全員に透析中止の選択肢を示す。過去8年間に終末期のがん患者が自宅での最期を遂げた例など14人が透析をやめたり、開始しなかったりしていった。

船越理事長は「福生病院の今回の患者が、透析中止の検討対象となる『全身状態が悪く、透析が難しい』状態ではない。方針をチームとして議論していなかったのでは問題だ」と話す。